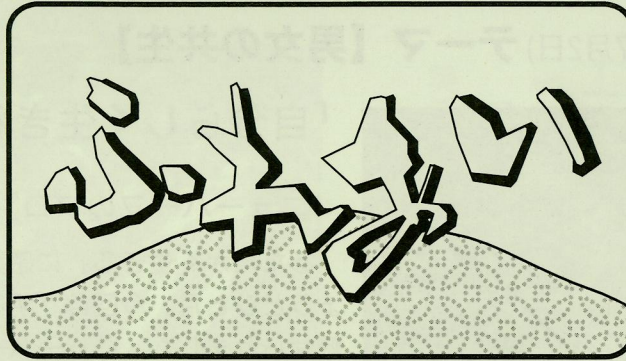


いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

第43号

発行:平成22年11月22日
(年3回発行)

編集:人権協広報調査部会
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-6709

FAX 32-9032

E-mail: jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

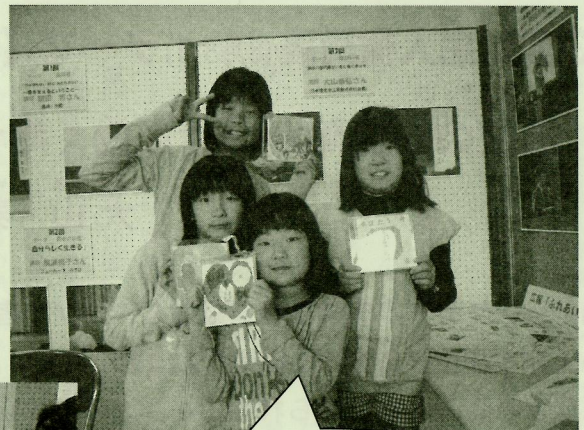
町民文化祭 人権協コーナー

人権パズル「おらが村じまん」・「想いでケースづくり」をしました。

10月30日、31日に中央公民館で町民文化祭が開催されました。「町民人権講座」の様子や人権啓発資料などの展示とともに、毎年大好評の「人権クイズ(迷路)」や、CDケースを使って写真やメッセージを飾る「想いでケースづくり」を行いました。

また、人権パズル「おらが村じまん」は、99個のピースに自分たちの集落のじまんを書いてパネルにはめ込み、大きな美浜町の地図を完成させました。

期間中、会場にはたくさんの方が訪れ、難解迷路に挑戦したり、思い思いのケースをつくり、パズルに“じまん”をはめ込んだりと、人権にふれながらそれぞれの催しを楽しんでいました。



こんなかわいいのが
できあがりました。

今年のパズルは
むずかしいなあ



海がきれい!



第2回町民人権講座(7月2日) テーマ【男女の共生】



「自分らしく生きる」

“ニューハーフのプロ” かじ うら かじ こ 梶浦 梶子さん

「あたたかく生きる」に感動した第1回の講座からちょうどひと月。今回は「明るく前向きに生きる」姿に魅せられました。ニューハーフを演じ、家庭では夫であり父…。軽妙な語りと楽しいショーに時がたつのを忘れながらも、帰路には「生きる」の一語が頭に浮かびました。

いろんな生き方があるんだなあと思った。でも、本人はたくさん苦労して、努力もしたんだろうと思う。笑顔の裏に、強くやさしい気持ちが見えて、とてもよかったです。男の人だけとてもきれいでした。

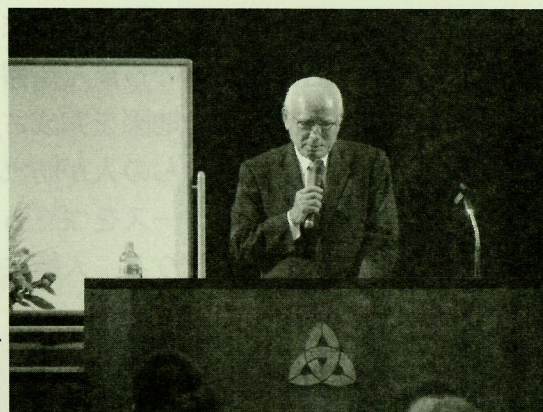
時代の背景もあると思いますが、それぞれどんな形であれ、自分が自分でいられる人生でありたいと思います。今あらためて考えさせられる講演でした。

第3回町民人権講座(8月8日) テーマ【障がい者】

「重度の知的障がい者に働く幸せを」

おお やま やす ひろ 大山 泰弘さん

講師は、チョーク製造会社を経営し、障がい者雇用を推し進めている日本理化学工業(株)会長の大山泰弘さん。「人間の幸せは、人に愛されること、ほめられること、人の役に立つこと、必要とされること」「障がい者雇用について、工夫、考え方次第で方法は見つかる可能性が十分ある」「企業と行政が手を組み、誰もが働ける場を創出していかなければならない時代である」というお話を豊富なご経験を踏まえて語っていただきました。



私も知的障がいを持った方々と仕事をしていますが、彼らからいろんな事を学ばせてもらっています。みんな一生懸命出来ること(仕事)を地道にやっています。もっと社会に巣立っていけるようになってほしいと願います。

誰もが「働く」ことで、人の役に立ち幸せを感じるというのは、とても共感できました。障がい者の就労を支える会でも、一人でも多くの方が幸せを感じられるよう支援していきたいです。

我が子のことが心配で、今日の講演会を聞きに来ました。子どもを取り巻く社会がうまく機能し、いい方向にまわり動き出せばみんなが幸せになれるのに…と社会全体を動かすような大きな希望に満ちた話を聞かせていただきました。話だけで終わってしまわないように…と心から思います。

※障がい者の就労を支える会の協力団体である若狭町のダイセン(株)が、今回の講座をきっかけに、早速障がい者の雇用枠を創出して下さいました。大変うれしいニュースです。

人権のつどい二〇一〇

沖縄の

いのちどころの うたばなし

〜人と平和と人権と〜

十二月四日(土)

出演：沖縄民謡歌手

午後一時三十分〜三時

(午後一時開場)

古謝美佐子

佐原一哉(構成キーボード、他)

美浜町中央公民館

ホール



沖縄民謡歌手で、初代ネーネズのリーダーだった古謝美佐子(こじやみさこ)さんのライブ&トークです。作家の五木寛之さんが、「今最もすごい歌手」と絶賛される方で、代表作「童神」は夏川りみさんや加藤登紀子さんなど数々の歌手によってカバーされています。当日は、「童神」「花」「安里屋ユンタ」「子守唄メドレー」などの演奏を予定しております。

第4回町民人権講座の参加者の感想を紹介

「橋のない川」

清水 美由紀(坂尻)

先日、町民人権講座の映画「橋のない川」上映会に参加しました。その原作となった住井すゑ氏の著書「橋のない川」を読みふけたのは、社会人になってからでした。それも、この美浜町で部落差別について勉強させていただいたことがきっかけで関心を持ったからに他なりません。明治時代の奈良県大和盆地の小森村を中心として、そこに生活する人々の姿が丹念に描かれていたその本に、次々とページが進んでいったことを覚えていません。それは、部落差別という、許されるはずのない、非人道的な問題を真っ正面に取り上げていながらも、人情味あふれる温かな繋がりの中で生きている部落の人々に、遅さと心豊かさを感じ、共感しながら入り込めたからだと思います。人間の持つ溢れんばかりの熱いエネルギーが、活字を通して私の体に伝わってくるのを感じました。また、部落差別の実態を淡々と語っており、差別が引き起こす貧しさが原因で幼い命が失われたり、家族が引き裂かれたりといった、想像しがたい過酷な現実と向き合いながら懸命に生きる部落の人々の苦悩は、私の心を締め付け、何度も涙しました。

部落差別ほど不条理で許し難い問題はないと誰もが思っているはずなのに、今も差別の実態が残っているということを聞きます。また、一方では幾多の差別をなくすために心血を注いでいる人たちがいます。人と人が裸で付き合うことはかくも困難なことであるうかと今更ながら思うのです。

「橋のない川」に橋を架ける作業は決してたやすいものではなく、一生かかっても及ばないと思われる」と住井すゑ氏は書き、未完のままこの世を去りました。しかし、たとえどれだけ年月がかかろうとも、いつの日か完結しなければならぬ人間の課題であることも力強く訴えています。何年も前に作られた映画ではありませんが、新鮮な彩りをもって再び私の胸に迫ってきました。映画の中に広がる大和盆地の豊かな自然と、そこに生活する人々の生き生きとした姿を見ながら、改めて人としての生き方について考えさせていただきました。

第5回町民人権講座(10月6日) テーマ【環境】

「環境保全と私たちの暮らし」

～身近な自然を振り返る～

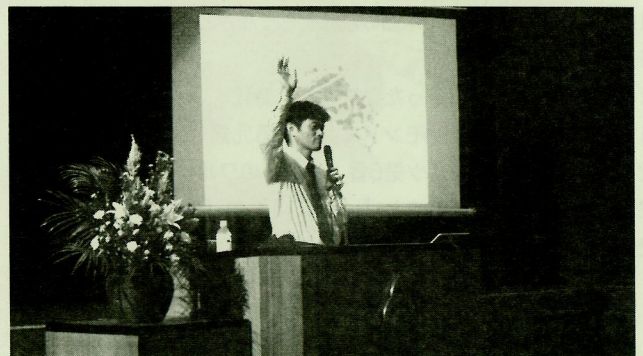
せき おか ひろ あき
関岡 裕明さん

講師は、環境アセスメントセンター北信越支社敦賀事務所長の関岡裕明さん。私たちの身近な自然が変わってきてしまっていることを豊富な写真や資料を使って話してくださいました。

また、生物多様性という視点から自然を守ることの必要性を指摘してくださいました。

自然に対する熱い思いが伝わってきて、最後まで楽しく聞くことができ、勉強になることが多かったです。日本に絶滅危惧種の動物、植物がたくさんあることに驚きました。人間と動植物との共存、簡単ではありませんが、自分にできることを探して取り組んでいこうと思います。

身近な自然をもう一度見つめ直してみたいという気持ちにさせられた。



こえ 声 こえ

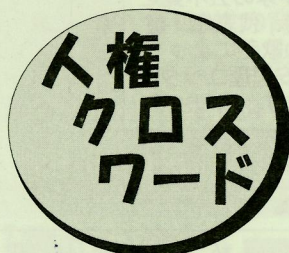
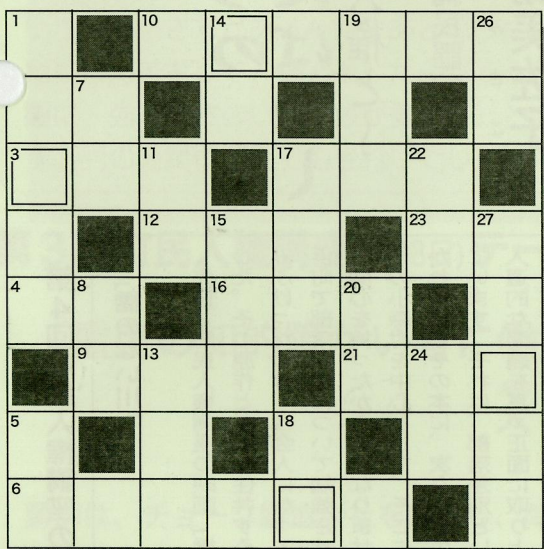
「ふれあい」第42号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので一部を紹介します。

○社会全体、地域全体で高齢者に対する関心を育む気持ちがますます重要になるのではないのでしょうか。美浜中の生徒や、小学生の子供達が、道で出会うとかならず「こんにちは」や「おはようございます」とあいさつしてくれます。高齢者にとってはうれしいことではないのでしょうか。子供達が地域や社会について考え、行動していく力を身につけて、高齢者社会を充実していく原動力になることを願っています。【久々子 Tさん】

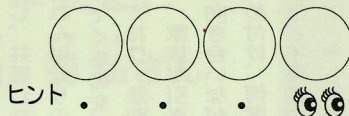
○田中先生のご近所さんを読んで、私達の子供の頃は（田中先生よりもさらにさかのぼって30年前になります）その子の顔を見ただけで何々さんちの何子ちゃん

と、区内のみんなが顔見知りでした。学校からの帰り道、道草をしているとおばさん達がその子の親たちに何子ちゃんどここの川で遊んでたよと知らせてくれます。最近は小学校まで毎日親や祖父母が迎えに行かなくてはいけない、時には集団で下校する。

私たちが私の子供達は小学校からの帰り道、途中の小さい山の方面に咲いている花をつんだり、行きつ戻りつして帰ったあの楽しみが今の子供達に無いのがかわいそうですね。農作業中に子供に声をかけただけで変態扱いされるおかしな世の中ですが、一人でも多く温かい気持ちで暮らせる世の中になってほしいです。【郷市 Yさん】



二重わくの中に入った文字を使ってできる言葉が答えです。



■応募方法■

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1192 美浜町郷市25-25
美浜町生涯学習課内 人権協事務局
- 〆切は、平成22年12月25日(土)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「あたたかさ」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。

- 小池康一郎さん (河原市)
- 武田 敏夫さん (久々子)
- 福田 和子さん (佐野)
- 八木三恵子さん (郷市)
- 馬野ひかりさん (佐野)

たてのカギ

よこのカギ

- 「0」のこと
- これまでの時間…【タテ20】、これからの時間…【ヨコ3】、その境となる現在…【タテ24】
- グニャグニャした食感のお菓子
- 完璧なこと
- 本能をおさえ、正しく判断する能力
- 1918年に富山県で米価の暴騰をきっかけとして起こった事件
- 鶏肉のこと
- 大化の改新が起こったのは○○○時代
- 鉛筆の芯やダイヤモンドに共通する元素
- ショパン作曲ワルツ第6番「○○○のワルツ」
- 運を天にまかせること「【タテ11】か【ヨコ23】か」
- 「0」のこと

- 右手の法則、左手の法則
- お父さんの呼び名の一つ
- 草木のとげのこと
- 1000分の1のこと
- 運を天にまかせること「【タテ11】か【ヨコ23】か」
- 内閣やその他、行政機関の総称
- 兄弟姉妹の娘のこと
- エイツ、ヤアツ ○○○を入れる
- 衣服などを入れておきます
- 地球における【タテ18】と【タテ26】の割合は約3:7
- 日本旧来からある麺類の一つ
- これまでの時間…【タテ20】、これからの時間…【ヨコ3】、その境となる現在…【タテ24】
- 日本旧来からある麺類の一つ
- これまでの時間…【タテ20】、これからの時間…【ヨコ3】、その境となる現在…【タテ24】
- 地球における【タテ18】と【タテ26】の割合は約3:7
- いろはにほへと ○○○○○

編集後記

映画「生まれる」が今月から公開された。題名から受けるイメージとは少しちがいが、生と死の両方をとらえている。四十組の夫婦への取材をもとにつくられたという。

虐待を受けた経験から親になることに戸惑う夫婦、出産予定日にわが子を失った夫婦、子を望むも授からない人生を受け入れた夫婦、生後一年以内に死ぬ確率九割という障がいを知りつつ出産を決めた夫婦などが登場する。監督自身、障害を持つ弟をめぐって親と不仲にあったことが制作の動機となったとのこと。

その監督に初めての赤ちゃんと生まれることになり、予定日と映画公開日が重なりそうだという。インタビューに答えて、「私が子どもにあげる最初のプレゼントは名前です。」何ていう名前だろう。よそごとながら期待がふくらむ。

そういえば、この広報「ふれあい」という名前も、町民の皆さんからのプレゼントです。素敵な名前です。おかげさまで、十四才になります。